

東北支部・四国支部

福島地域会・徳島地域会

「フクシマトクシマの会」の取り組み② 仮設住宅試行プロジェクト

本誌272号(2011年9月号)の支部便りで取り上げた「フクシマトクシマの会」の取り組みを再びご紹介します。これは、被災地フクシマと未被災地トクシマとの、いわば協働の記録です。交流のきっかけから、以降、訪問交流や会議での情報交換ですすんでいった徳島の海部観光社員寮—仮設住宅試行プロジェクトの変遷を、時系列で紹介いたします。書き手はトクシマ：内野輝明(徳島地域会)、フクシマ：阿部直人(福島地域会)。

▶トクシマ

2011年5月12日……JIA支部長会被災地視察に参加(気仙沼～南三陸町～仙台市南部)

▷フクシマ

5月13日……JIA東北支部総会において、我々福島地域会がその時まさに取り組んでいた福島県木造仮設住宅についての報告を行った。阪神大震災以来問題とされてきた「コミュニティ問題や生活の質」を少しでも改善したいとの思いの報告であった。それは、我々が表に出ない黒子としての取り組みであったが「福島から仮設の概念を変えたい」という会員一同の強い意思の表れでもあった。

同夜、徳島から来られた内野さんが辺見地域会長との縁から福島地域会の懇親会にまぎれこんできた。より詳しい福島の現状を伝えるなかで福島の支援と徳島の備えのための「フクシマトクシマの会」が結成された。

▶トクシマ

5月17日……東日本大震災からの復興を期すフクシマと、トクシマの東海東南南海地震への備え、情報交換の場として「フクシマトクシマの会」ブログ開設。



ブログバナー <http://fukushimatokushima.seesaa.net/>

5月27日……視察報告会開催@文化センター・被災地視察に参加した数名で、写真や資料で報告会を開催。



8月5日……かねてから相談を受けていた徳島・視察報告会

た、海部観光社員寮建設予定地初視察。激務をこなす夜行バスドライバーを癒す单身者寮は上質な最小限住宅であるべき。日当たりのよい高台を見て、「徳島にもいずれ起こる大災害への備えのため、ここで仮設住宅の試行をさせてもらえませんか？」と海部観

光打山会長に提案。その場で同意をいただいて、「仮設住宅試行プロジェクト」がスタート。

▷フクシマ

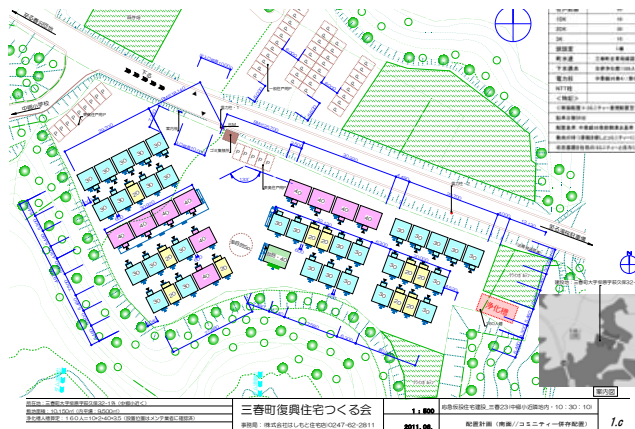
8月12日……阿波踊りの誘いをいただき徳島へ向かった。四国支部四県からの会員、本部専務理事や東北支部長、関東甲信越支部や北陸支部の仲間が集まっていた。東北の状況を含めたその後の福島の木造仮設住宅のコミュニティー



仮設住宅の具体的配置計画の実践を徳島で報告

を大切にしたい具体的配置計画の実践を報告した。

その後の懇親会や阿波踊りへの参加は、混迷を深める福島の災害をひと時忘れさせてくれるような休息を味わうことができた。



福島・三春中郷仮設住宅配置図

▶トクシマ

8月27日……海部観光社員寮(仮設住宅試行プロジェクト)基本計画提出。建築の中身もさることながら配置がとても重要であることを先の報告会で教わり、樹のまわりに集い住む「風車配置」を提案。4戸は互いに独立しており、通路で隔てられる。南北軸



徳島・提案した「風車配置」

からは振って配置され、4戸の日照、通風などの諸条件を均等にする。中央に植わるケヤキは、被災地以外の支援者が寄贈する。義捐金よりも目に見えて、具体的に人と人の交流のきっかけとなる



徳島・夜行バス海部観光「マイフローラ号」

支援。樹を寄贈した人は、また、野菜を送ったりお菓子を送ったり、文通したり。入居者は、遠くに自分達を見守ってくれる人をもいつも感じて生活する。4月に運行開始した12席しかない徳島～東京間の夜行バス海部観光「マイフローラ号」の設計監理をしたのだが、そこで通路、カーテン、前後のパーティションなどを通じて、設計したのは「バス車両」というよりも、「人と人の距離感」だったことを改めて認識した。ケヤキの周りに集い住む、人と人、人とケヤキ、建築、それぞれの距離感が、ここでもとても重要であった。この社員寮も同じ。

▷フクシマ

9月26日……フクシマトクシマの会@有楽町。UIA大会で全国の建築家が東京に集結するなかでの懇親会開催。我々福島地域会のメンバーはUIA大会での原発問題タブーのような空気に、煮え切らない気持ちを発散するも、トクシマの方々の熱い気持ちと意気投合、徳島の美波町職員から「震災への備え意識の上がらない町民」に向けて被災体験の講演依頼に、「どこまでも行きますよ」と快諾。1月の震災シンポジウム参加となった。

▶トクシマ

10月26日……海部観光社員寮地鎮祭。

11月7日……現説。より多くの参加で広く「備え意識」が伝播することを願って、7工務店に現説を行った。



徳島・現場説明会



福島・三春中郷仮設住宅

▷フクシマ

11月18日……フクシマ復興支援会議開催。

徳島、金沢、東京、北海道からも会員が参加。全国のどこにでもある小規模地域の震災復興の一例、小さな三春町の工務店集団とJIAが連携して、プレハブ協会がやらない不整形で高低差のある小さな土地に造った仮設住宅の数例。さらに「仮設住宅その後」として、仮設住宅から復興住宅への木材再利用提案や2地域居住と避難者の移動に関する提案。フクシマの場合どこへ復興住宅をつくるのか。



▶トクシマ

12月1日……11月会議で学んだ「仮設住宅その後」。

風車の1戸1戸を再利用できないか。解体してパーツを加え、交換し、アレンジして、新たな敷地に持って行って



改築バリエーションの模型

2、3戸つなぎあわせて復興住宅にできないか。打山会長に見せると、「ほな、ここで両方建てたらは？ドライバーは単身者も家族



Emergency House

(1～2人用)

Elements

(払い下げて仕様変更)

Eternity House

(家族用)

徳島・海部観光社員寮(仮設住宅試行プロジェクト)改築バリエーションコンセプト図

東北支部・四国支部



完成を祝して、福島地域会のみなさんからお花が届く



徳島・海部観光社員寮（仮設住宅試行プロジェクト）完成写真
手前がケヤキを囲む単身用4戸の風車、右奥がファミリータイプ

持ちもおるんよ」。風車2組から、風車1組と、3戸分を組合わせたファミリータイプとに計画変更（風車を払い下げることを見込めば、当初の仮設住宅のグレードをその分上げられるのではないか）。

▷ フクシマ

2012年1月……徳島にて連続シンポジウム（津波被害を受けた宮城の建築家＋福島2名の建築家）、13日美波町コミュニティホール、14日徳島県建設センター、震災体験とその後の建築家活動を報告。想定を超えた災害に対する備えの重要性を訴える。



徳島での連続シンポジウム

▶ トクシマ

2月20日……海部観光社員寮上棟式、上棟見学会。行政、林業関係者、設計者、一般の方々、多くの方にご参加いただく。

4月5日……完成見学会＋説明会。「仮設住宅」という名称が、こういう住宅のあり方を制限していないか。「EH-J 内原の風車（Emergency House-JAPAN 地名＋建築名）」緊急住宅に風土性を、誇りを。入りたい気持ちになってもらう。各地でいろんなEHJを考えておく。施工者、職人さんたち、市民、みんなが知っておき、意識しておく→備え意識の維持。材料の備え→製材した木材の備蓄が不可欠である。県下で1年間に建つ木造住宅、木造建築分が備蓄できれば良い。翌年分を今年伐採して自然乾燥を。育ちすぎた杉林、足元に陽光が入



上棟式



完成見学会＋説明会



ケヤキごしに向かい合う



徳島県産材をふんだんに使った板倉構法

らず、生態系が崩れシカやイノシシが山を降りる荒廃した山を、コンスタントな伐採で健全な状態へ戻せたら。また再植林ができる山の経済の建て直しにつながれば。仮設住宅を考えることから国土保全へ。小さなプロジェクトが大きくなうねりへ……。

阿部直人
（福島地域会）



内野輝明
（徳島地域会）

